

VR（仮想現実）を使った人材育成サービスの「ジョリーグッド」（中央区、上路健介CEO）は介護研修用VR「ケアブル」の提供を始めた。介護場面を想定した360度映像で職員と利用者の双方の立場を体感し、当事者意識を持って学べることが特徴だ。

VRゴーグルをかけると（写真上）、あたかも自分が居室のベッドに横たわっているような映像。そこに介護職員がやって来て入浴を急かされる（写真下）。「入りたくない」と訴えても、ベッドの上から威圧するよう「順番だから早く」と取り合ってくれない。そんな場面を元に、利用者が感じるであ

「疑似体験」で利用者の気持ち学ぶ

介護研修用VRを提供 ジョリーグッド

ろう嫌な気持ちを疑似体験できるのが「認知症対応」の研修VRだ。「正解」の映像では職員が優しく対応してくれて、「こんな介護者になろう」という気持ちが生えそうだ。

このほか、「危険予知」や「不測事態対応」など20以上の研修コンテンツをそろえる。

同社はすでに小売業や飲食業の研修用VRサービスを始めており、「介護業界向けにも」という声があったのが開発のきっかけだったという。

追加サービスで利用者向けの「回想法VR」というコンテンツもある。「別府温泉」「パンダ」「お花見」といった映像とナレーションを体験してもらう。普段は反応が少ない人のコミュニケーションが活発になる効果が見られたという。

VRゴーグルは買い取りで1台5万円（税別）。コンテンツ利用料は月額5万円（税別）。03・4455・2694。

